

こどもの原点 ～遊びを通して学ぶ～

校長 舘林 美和

10月30日(木)に、1年生が落合神坂こども園の園児を招いて「にこにこあきのおみせやさん」を開き、交流をしました。1年生は、秋見つけて集めたどんぐりやオナモミ、松ぼっくりなどを使って、楽しく遊ぶおもちゃを作成しました。「どうしたら面白くなるのかな」「お客さんが笑顔になるにはどうしたらいいのかな」など考えながら、おもちゃを工夫して作ったり、遊び方や接し方を考えたりして当日を迎えました。

お客さんの園児たちがお店の前にやってくると、「どれがいい?」とおもちゃを選ばせたり、「こうやって遊ぶんだよ」とお手本をみせてくれたり、上手にできると「すごい!」と一緒に喜んだりして、おもてなしの気持ち満載でやさしく園児たちに接して、“おみせやさん”を楽しむことができました。

これは、生活科の学習の一場面です。子どもたちにとって“おみせやさん”は「ごっこ遊び」です。その遊びを通して役割を演じることで、自分以外の人の立場や感情を追体験することができます。小さいながらも、他者の気持ちを理解する力や協調性が育まれていきます。また、順番に並んでもらったり遊び方のルールを作ったりすることで社会生活で必要なことも学ぶことができます。そして、言葉を使うことで語彙力も増えていきます。



生活科だけでなく、図画工作科では「ねんど遊び」「砂遊び」、体育科では「水遊び」「おにごっこ」「ボール遊び」…このように低学年の学習は『遊び』がたくさんあり、そこから学習がスタートしているのです。言い換えれば、簡単な遊びを通して生きるために必要なことを学んでいるということです。その時に私たちが大事にしていることは、「夢中になって遊びこむこと」「失敗を恐れず、何度も挑戦し、試行錯誤させること」です。その経験や過程には必ず学びがあるからこそ、幼児期や児童期の経験を大切にしたいと考えます。

遊ぼうぜ!!

先生も一緒に!

我々教師は子どもと接する仕事と言えども「遊び」の大切さを忘れてしまっているのではないかと…と思うことがあり、11月の昼休みに「先生とドッジボール対決!」を企画し、子どもたちと遊びました。第1回目は3年生と対決しました。3年生全員と先生チームは10人。先生たちの投げるボールを果敢に捕球し、懸命に向かってくる3年生。先生たちも本気で対戦しました。ドッジボールコート

の周りは、他の学年の子たちが応援に駆け付け、ナイスプレーに大きな拍手や歓声をあげていました。「次は、いつやるの?」「ぼくたちとやって。」とリクエストの声も多くあがりました。

教師も真剣に遊びに向かうことで、子どもたちの秘めている「何か」を引き出すことができたかと、その「遊び」の効果をつい期待してしまうのですが、一番は単純に『一緒に楽しむこと』です。そして教師も遊びを通して子どもたちのことや自分自身に何か気付くことができたかと思っています。

声を出し、笑い、体を動かし、心を開放する…そんな時間を今、子どもたちと共有しています。

家族での遊びはいかがですか?

